



～特集～

日本遺産等の 地域遺産を活用した地域活性化



「日本遺産等の地域遺産を活用した地域活性化」をテーマに、地域の歴史や文化等を活かした活動について、知事と語り合っていました。(令和元年9月20日対談)

【出演者】

今井 ひろこ

コムサポートオフィス 代表

柿木 貴智

株式会社御影屋 代表取締役

玉田 恵美

NPO法人姫路コンベンションサポート 理事長

井戸 敏三

兵庫県知事



人情喜劇
銀の馬車道劇団



山陰海岸ジオパーク



松右衛門帆
(北前船)



自己紹介

柿木 高砂市で生まれ育ち、32歳の時に青年会議所に入会し、2009年に理事長になりました。その時、自身が高砂の事について何も知らないし、知人に聞いてみても、親子共々あまり興味が無い。キャラクターなど人の目に触れるものをつくったら、子どもがお母さんに「ねーねー『ぼっくりん』って何？」ってなるかなと思って仕掛けをつくりました。名前は市内の小学生に募集をしました。それから高砂市のマスコットキャラクターとして活動を展開し、その頃から行政と一緒に全国で高砂市PR活動を始めました。



柿木 貴智さん

知事 「ぼっくりん」は人気があるそうですね。

柿木 全国での活動のおかげでCMに出させていただき、またイラストを使用したポスターや看板ができ、定着しました。



玉田 恵美さん

玉田 以前は神戸でホテルマンをしていました。退職後姫路市の記念事業推進室に入り、行政の一員として事業に携わりました。その後、次は民間と行政の間をとりもって何かできないかなあと。ちょうど姫路市が観光を1つの産業としてとらえ取り組みを始める時でしたので、おもてなし資源をみんな

で作っていきたいと思い、NPOを立ち上げました。それからもう20年、姫路に住んで30年になるんですが、出身は赤穂市でございます(笑)。

知事 赤穂で生まれ育って神戸で修行して、その中間の姫路に落ち着いたと。

玉田 そうです。「ひめじ良さ恋まつり」を立ち上げるところから始めました。ボランティアってもっと気合いがいるものだと思っていたんですが、そうでもなくて、自分のできることをお手伝いするというのが、ボランティアだと分かりました。それも市民の皆さんにお伝えしながら、一緒に街を盛り上げていく活動をしています。

知事 自然体でできることなんですね。

玉田 そうですね。自然体で取り組んでいます。

今井 大阪生まれで、大学で化学を専攻し、卒業後は播磨町の化学会社に就職、大阪から明石に移り住みました。当時ストレスで今より10kgぐらい太っていてダイエットで始めたダイビングにハマってしまいました(笑)。知人から香住のダイビング屋さんがインストラクターを募集していると紹介され、行ってみたら



今井 ひろこさん

海的美しさにびっくりしました。それからずっと2拠点生活をしていたんですがそのうちに現在の夫と一緒に、環境活動や教育活動、ビーチクリーン活動を行う「NPOたじま海の学校」を立ち上げました。それをきっかけに結婚しまして、会社をやめて、明石から香美町に移住しました。

知事 結婚の力って大きいですね。

今井 それから2年後に、ダイビング中の事故がきっかけで、一時期私が潜れなくなってしまっ。その時に夫が紹介してくれたのがジオパークでした。最初8ヶ月だけのつもりだったのが、「今井さんおもしろいからもう少し続けてね」ということで、そのまま3年間、ジオパーク推進員という香美町の嘱託職員を引き受けることになりました。

復元！「松右衛門帆」そして地場産業振興へ

知事 さて、柿木さん。柿木さんはどうやって松右衛門帆を見つけれられたのか。そして、松右衛門帆の特色は何なのか。今どう活用されているのかを教えてください。



柿木 「『ぼっくりん』以外に、地域資源を活用した何かをブランディングしてくれないか」と言われたことが始まりでした。高砂市史を読みながら、日本で初めて帆布を作った人物が高砂出身の工楽松右衛門ということを知りました。

調べる中で、神戸芸術工科大学の野口教授が書かれた、西脇の播州織についてのレポートの中に、工楽松右衛門のことが載っていたのを見つけました。すぐにアポイントをとり、松右衛門帆と今の一般帆布とどう違うのか説明を受けました。

知事 どう違うの？

柿木 一般の帆布は一本一本、交互に織られているんです。それに対して、松右衛門帆は二本二本で引きそろえられて織られている、という点で全く違います。打ち込み本数、1インチの中に何本打ち込まれているか、これによって柔らかくなったり堅くなったりするんですけど、松右衛門帆の場合は打ち込み本数が少ないので柔らかい生地になります。



知事 あれ、ごわごわしているかと思ったら触り心地悪くないですね。

玉田 今井 ほんとだ。柔らかい！

柿木 野口教授と共に神戸大学海事博物館にあった、工楽家が寄贈した帆布を糸一本から調べ上げて、2010 年に松右衛門帆を復元しました。

復元後、高砂の万灯祭というキャンドルイベントで、帆を見立てたものを作り展示しました。

知事 今は何に使われているんですか？

柿木 帆として展示しても全国にPRするのは難しいなと思ったので、商品展開しようとバッグを作りました。

知事 これは簡単に染まるんですか？

柿木 綿なので問題なく染まります。

知事 御影屋さんは、松右衛門帆の製造工程を一括してされているんですか？

柿木 今は織だけです。あと小物を作っています。いらなくなった生地を捨てるのがもったいないので、何かに使えないかと思ひまして。

知事 他に協力していただいているところは？

柿木 西脇の方で織と染めをしてもらっています。カバンに使うパーツは姫路レザーやたつのレザーを使っています。カバンの製造は豊岡で。

知事 全て兵庫の関係者が作り上げているバッグですね。

柿木 そうですね。そこにはこだわりをもっています。これから全国に発信できたらなと思っています。

知事 それは楽しみです！それから、松右衛門帆は外洋船に使ったんですか？

柿木 北前船に使われていました。

知事 じゃあ丈夫ですね。日本遺産にちゃんと採用されているじゃない。北前船の帆ということで、ぜひさらに大きく帆を張っていただきたいと思います。



「銀の馬車道」のPRから始まった、演劇による地域おこし

知事 銀の馬車道、日本遺産になりましたね。私も何度か拝見したんですけど、「銀の馬車道劇団」はどういうきっかけでスタートして、今はどうなっているんですか？

玉田 中播磨県民局から、実際は運んでいた訳ではなさそうなんですけど、生野から銀を飾磨の港まで運んでいた日本初の産業高速道路「銀の馬車道」をみんなに知ってもらうために、何かイベントができないかなと相談されたのがきっかけでした。知人の松竹株式会社のプロデューサーに相談したら、「住人達でつくる劇団」はどうかと。プロの俳優も一緒にやっというところと提案されました。そこで出演者をどうするかを考えていた時、平成 18 年当時、但馬・丹波・播磨をつなぐ拠点で、宿場町として栄えた福崎町田原にある小学校が開校100年を迎えると知りました。ここでやろうと田原小学校に行き、校長先生や PTA などに声をかけたところ、子どもたちがやりたいとたくさん集

まってきました。知事をご覧になった時も、なぜか大人の役を子どもがやっていたのですが(笑)。

知事 夫婦の愛情細やかなシーンを子どもがやっているんですよね。これが合わないんですよ(笑)。

玉田 笑うシーンじゃなくて、しみみりするシーンなんですけど(笑)。10 年間やってきますと、小学生は大学生や社会人になり、今度は子ども達を指導するといった良い循環が生まれてきました。中には学校の先生になって福崎に帰って来たいという子どももいます。

知事 目的の「銀の馬車道」のPR効果はいかがでしたか？

玉田 一定の効果はでたのかなと。

知事 沿線の人たちは、もう「銀の馬車道」を理解してる？

玉田 はい。演劇をもう飽きるほど観ましたという方もいらっしゃる。十分に役割を果たせたと思います。そこで、平成 30 年8月の姫路公演をもちまして、一旦休止をしております。また機会があれば劇団員が集まってPRのお手伝いができればと思います。

知事 12 年間くらい？

玉田 通算で 12 年間くらい、公演数は 16 回、動員数は8,000 名くらいです。

知事 そうなんだ。頑張ってこられたんですね。

玉田 頑張ってこられたのは、地域の方々が盛り上がり下さったのが大きいです。

知事 住民劇団というコンセプトがよかったんですね。

玉田 そうですね。必ず地元の小学生や大人に参加してもらってきましたし、手作り劇団というのがよかったと思います。それに 12 年間付き合ってくださった、渋谷天外さんはじめ松竹の方々には非常に感謝しております。



知事 日本遺産に「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」という形で指定されたでしょ？指定されたら、もっと銀の馬車道をPR するために頑張るのが一般的かなと思うんですが。

玉田 おっしゃるとおりです。ただボランティア劇団になりますと、例えば大阪でやろうとしたとき、皆さん仕事を休んでいけるかとなるとなかなか難しいんですね。また、地元でやるからこそご近所の方々や学校のお友達が見に来てくれる。これからは次の展開があるんじゃないかなと思い、非常に惜しまれながら舞台を降りました。

知事 次はどういう活動をされているんですか？

玉田 実は、「銀の馬車道」は沿線の方々にはよく知ってもらったのですが…中・高校生の層がごっそり抜けています。とい

うことで、今年 12 月に「銀の馬車道高校生フォーラム」をします。沿線の高校生に集まってもらって、今「銀の馬車道生徒会」みたいなものを立ち上げています。ここで、「どうしたら銀の馬車道を自分たちの世代に知ってもらえるか」をテーマに話をしてもらいます。

知事 高校生がのってきたということは日本遺産に指定されたことが大きいのかな。

玉田 大きいですね。高校生の発想はすごくおもしろいです。「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」は漢字が多すぎる。全部まとめて「銀の馬車道市」という、大きな市にしたらどうかと言われました(笑)。

知事 楽しそうですね。

山陰海岸ジオパークをはじめ、 但馬の魅力は盛りだくさん！

知事 山陰海岸は非常に変化に富んだ美しい海岸で、ジオパークに指定されて、私達もジオパーク推進プロデューサーの設置など推進体制も整えて、もっとしっかりと発信していこうとしています。

今井さんがジオパークにおいてどういう活動を展開してきたか、それからその活動が現在どう結びついているか、将来にどうつないでいくかという観点でお話してください。



今井 ジオパークの地形、地質、風土を保全しながら、教育や観光、商品作りなどをして、持続可能な地域づくりをしていこうと動いています。この大地を活かした暮らしぶりをPRしていく出前活動を3年8ヶ月の間に108回もさせてもらいました(笑)。



知事 108回！
今井 はい。また、いわゆるサイエンスカフェのジオパーク版「ジオカフェ」を、地理学や農業、漁業の専門家とふれあうイベントとして開催しました。子ども達に対しては、地元を回ってもらいたいなと思って、専門家や現役の先生と一緒に、「ジオ

パークフィールドノート」という冊子を作りました。

知事 これはおもしろいですね。

今井 ありがとうございます。そうやっていろんな活動をやっていくと、ジオパークを使って商品を作ったり PR をしたりする、たくさんのおもしろい人と出会うことができました。

知事 柿木さんと一緒だ。

今井 そうですね！そうすると、東京や大阪に出た同級生が「あいつ頑張ってるし、香美町おもしろくなってきたな」と帰ってくるんです。それが但馬全体に広がるともっとおもしろいなと思って、香美町を退職して起業しました。

知事 今はどういうお仕事を？

今井 集客のコンサルタントを行う会社をしています。これまでよく聞いたのが、まず地域資源を知らない、気づいていても

どう伝えていいかわからないということだったので、記憶に残る伝え方を教えています。

例えば、香美町は梨の生産量県内一位ですが、鳥取等の他の梨の産地では使われないものを使っています。香住といえはカニ、そのカニの殻を使っているんです。成分の一つであるキチンキトサンは土が硬くなるのを防ぎ、もうひとつ、アスタキサンチンには抗菌作用があって土の中の悪い成分をなくします。そういう話をすると、地元のものを買ってくれるようになるんです。

知事 資源を地域と結びつけ、ストーリー化していくことが重要なんですね。

今井 知事がおっしゃるとおり、ストーリーを伝えていくのは大事だと思います。また、山陰海岸ジオパークのガイドコーディネーターとしての活動もしています。私は1カ所のガイドにとどまらず、たとえば竹野や浜坂という他のジオパークエリアと結びつけるような活動をしています。平成29年には余部橋梁にクリスタルタワーができてまして。

知事 エレベーターでしょ。このエレベーターをつくったのは、冬の日本海を見てもらいたかったからです。日本海は春夏秋冬はすごく静かで絶好の潜りの海なんですけど、冬はとんでもない荒海。その荒海を体験して欲しいと思ってね。

今井 ここを案内するガイドを養成してくださいとの要望があり、ジオガイドチーム「香美がたり」というチームを作りました。ガイド歴40年の遊覧船「かすみ丸」の3姉妹船長をされていた方々や、説明がマニアックで楽しい元国鉄職員の方などがいて、非常に人気です。



知事 観光資源がますます増殖している。

今井 そうですね。本当にありがたいです。

知事 大阪出身だからこそ、但馬の良さを見つけられたということはあるんですか？

今井 それは大きいと思います。地元の方って、知事のおっしゃった冬の荒波とか「それがどうしたの」って言われるんです。観光客は荒れ狂う日本海を見たくて来てるんですよと言うと「え？」と(笑)。

知事 今井さんは地域の資源と人とを結びつけて、ネットワーク化してくれているんですね。

今後の抱負

知事 最後に、これからの抱負を語っていただきましょう。まずは柿木さん。

柿木 はい。2年ほど前から、古民家や空き家活用の勉強をしています。高砂町内には空き店舗や古民家が多いんですが、なかなか手をつけられないというのが現状です。古民家といいながら古い家ではなく、トタンが錆びていたり看板が古くなったり。「これドラマのセットみたいやな」と言われるような空間が高砂町内に



残っているのです。

知事 トタンの錆びているままで残そうと？

柿木 そうです。高砂に来なければ見られないような古民家
空き家、空き店舗プロジェクトを今進めています。松右衛門帆
についても、デザイン関係の人に高砂市内の古民家に住んで
製作活動をしてもらえたら、すごく素敵な街になっていくので
はと考えています。

知事 古民家というよりは、古い昭和住居を使ったまちづくり
ですね。

柿木 そうですね。他のエリアと差別化するために、昭和初期
ぐらいの味をそのまま残しつつ、何かしらの店舗を作っていく
というのも一つかなと。

知事 そうすると中に何をいれるか、それが重要ですね。高砂
の歴史や文化とかと結びついてくるといいんでしょうね。
玉田さんはいかがですか。

玉田 銀の馬車道劇団の 10 年間の活動
を『我がまちの人情喜劇「銀の馬車道」』
という一冊の本にまとめました。これま
での道のりをきっちりまとめておこうと
いう思いからだったんですが、これが意
外な効果で。今、昭和 30 年くらいに建て
られた文化施設が古くなってきていて、
改修等をする時期にあたりますが、これ
からクリエイティブなものに市民がどう
関わっていけるか、話を聞きたいという方がかなりいらっしや
います。そういう方々の力になりたいのがひとつ。



もう一つ、今度は穴粟市、たつの市に目を向けまして「発酵ロ
ード」をやりたいと思っています。播磨国風土記によると、穴粟
は日本酒発祥の地と言われ、下流域では醤油、小麦、もろみ、
味噌づくりが盛んなんですが、それらは穴粟にあった「たたら」
のおかげだという説があります。こういった地域資源を地域の
人と見直しながら、播磨の「発酵ロード」を全国に PR したいな
と思っています。

知事 「発酵ロード」か。穴粟が起点で、終点は？

玉田 網干あるいは赤穂あたり。ポテンシャルが非常に高いと
思うんです

知事 それでは最後に、今井さんお願いします。

今井 私はジオパークの活動に対して、ボランティアのイメー
ジがすごく強かったんですが、実際に起業してからは、地域を
盛り上げていくには適正な対価をもらってやっていかないと
続かないって事に初めて気が付いたんです。住民自身が地域
を支えないといけないと思うようになりました。それに、地域
を守りたい人と大事にしたい人が交わる時に、良い化学反応
が起こるんです。

知事 化学反応ですか。

今井 その化学反応を見るのが好きで。但馬だけではなく、県
全域で新たな産業を産み出すためには、いろんな人を結びつ
けていかなきゃなと思います。

知事 これはなんか、ずいぶん発展しそうですね。

今井 山陰海岸ジオパークだからって黙っていたら、お客さ
んは全然来ないですよ。

知事 鉱石の道もとりこんで。

今井 そうですね。ジオジオで、一緒にやりたいなと思ってい
ます。ジオパークは日本に 40 以上ありますので、ネットワー
ク活動の中で、ブランド力を高めようと動き始めたところです。



また、香美町って海外か
ら嫁いでいる方が結構
いるんです。インバウン
ドのガイドって日本人で
英語が話せる人ってイメ
ージですけど、嫁いで
こられた方がその国
の方を案内するとなる

と、日本の暮らしやその暮らしと大地に根付いた話をたくさん
してくださるからおもしろいなど。そういうガイドさんをうちの
NPOで育てられたらいいなと思います。

知事 それは非常に重要ですね。お二人の活動にも通ずると
ころですね。

柿木さんは民家の改修に対して、プロジェクト名をつけられて
いるとか。

柿木 「#高砂ガウディ計画」です。アントニオ・ガウディのサ
グラダ・ファミリアが建築し続けていることから、高砂もつくり
続けていくという思いから、合言葉で「#高砂ガウディ計画」
としています(笑)。

知事 なかなかユニークですね。

玉田さんの活動も、何か名前を付けた方がいいんじゃない？

玉田ほんとですね、負けられない(笑)。「発酵ロード」だけ
じゃなく、もうちょっと何か広められるようなものを考えます。

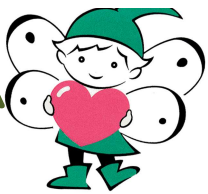
知事 発酵ロード自体、誰もが思いつくものではないですが。
そして、今井さんは化学反応、触媒ですね。お三方から、地域の
資源を活用して、地域の活性化に繋がる活動をご紹介いただ
き、これからの抱負も語っていただきました。お三方のような
方が地域にいらっしやることが、兵庫の元気に繋がります。こ
れからもどうぞよろしくお願いいたします。今日はありがとう
ございました。

柿木 玉田 今井 ありがとうございます。



ココロンHP内の県民運動情報ネットワ
ークの頁にて、より詳細な対談の様子
を動画にて配信中！

「ネットワーク 知事対談」で検索、もしくは
QRコードをスキャンして下さい♪



湊川隧道保存友の会、地域で守る登録有形文化財
湊川隧道保存友の会 会長 渡邊 保(兵庫区)

湊川隧道保存友の会 市成
電話 090-5255-6288

「湊川隧道」は、国登録有形文化財に指定された日本最初の河川トンネルです。明治34年より約百年間、市民を水害から守る役割を終えましたが、有識者より高い歴史的・技術的価値が認められ、平成13年に地元住人ら約150名が集まり「湊川隧道保存友の会」を発足しました。毎月第3土曜日には一般公開やイベントを行い、明るく楽しい音楽が隧道内に響き渡ります。1・17では鎮魂の竹灯籠、6月には地元中学校の演奏会、11月「土木の日」には通り抜けが行われます。「神戸新鮮市場」等と共催の新湊川祭りでは、スタンプラリーを取り入れ地域活性化の工夫も凝らしています。これからも湊川隧道を“地域の宝”として多くの方々に関心を持ってもらえるよう活動に取り組んでいきます。



9月に行われたミニコンサート

「日本一の里山」と市民との共生をめざして
川西里山クラブ 会長 辻本 哲(川西市)

川西里山クラブ 辻本
電話 072-794-3203

平成17年に設立された川西里山クラブは、日本一の里山と呼ばれる川西市黒川地区内の妙見の森を拠点に森林保全・整備、森林を通じた歴史・文化の伝承や地域交流などを活発に行うボランティア団体で、平成22年に兵庫県くすのき賞を受賞しています。

当クラブは、活動中に絶滅危惧種のエドヒガン桜の群落を発見し、苗木の育成や周辺整備のほか市民参加の植樹やPR活動を展開しました。その成果もあり同群落は、平成23年に川西市の天然記念物に認定されています。

また、平成20年度に始まった小学4年生の里山体験学習に、当クラブが参画しています。参加した子どもたちは、里山保全の大切さを家族に伝えるなど、子どもたちの自然に対する豊かな心を育てています。



クヌギの苗木の植樹を行った妙見の森で

コミュニティレストラン「誉田の館・いろどり」
味彩会 顧問 小林 千津子(小野市)

誉田の館・いろどり
電話 0794-60-4717

「誉田の館・いろどり」は市内7つ目のコミュニティレストランとして、平成26年3月30日にオープンして今年で6年目を迎えることができました。

施設が建つ周辺は、古くから誉田(よでん)とよばれ下東条中学校が建っていました。地域は、小田城や豊地城と築城跡があり建物もこれをイメージして建てられました。眼下には東条川が流れ、おいしい東条米が取れる田畑が広がっています。地元の主婦が構成する「味彩会(あじさい会)」会員14名が旬の食材をふんだんに使った手作り料理やお弁当、土日にはパンも焼いています。カレーパンがとて人気です。四季折々の風情とお料理をお楽しみにお越しください。



春には前庭の桜がきれいです

北前船寄港地坂越浦 日本遺産追加認定のあゆみ
坂越のまち並みを創る会 会長 門田 守弘(赤穂市)

坂越のまち並みを創る会 門田
電話 0791-46-8088

私たちの会は、平成27年7月1日より廻船の勉強を始めました。活動のきっかけになったのは、「旧坂越浦会所」にある一枚の写真です。発行元である旧余市福原魚場に問い合わせを行い写真に写っている内容についてお話を承りました。このように、先人が残してくれた歴史をひもとき、文化財を保存から活用の時代へと挑んだ市民活動の物語がごく自然なかたちで生まれ、その流れの中から多くの方々の協力を得ることができ、日本遺産追加認定のあゆみへと導かれたのです。

日本遺産追加認定までの約3年間の歳月のなかから学んだことを大事にしつつ、身の丈にあった、日本一美しい住み家、坂越浦をめざし続けます。



日本遺産追加認定を万歳三唱で祝う皆さん

歌いつがれる丹波篠山の文化・伝統
兵庫県丹波篠山デカンショ節保存会 会長 山田 良一(丹波篠山市)

丹波篠山市商工観光課
電話 079-552-1111(代)

デカンショ節は江戸時代の民謡「みつ節」が起源と言われ、時代ごとの丹波篠山の風土や名所、名産品などが歌詞に盛り込まれているのが特徴で、平成27年には、そのデカンショ節をストーリー化したものが日本遺産に認定されました。

毎年8月15・16日に開催される「丹波篠山デカンショ祭」に向けて公募から選ばれる「日本デカンショ節大賞」では、その時代に合った新しい歌詞が生まれており、過去から現在、そして未来へ歌いつぐデカンショ節のさらなる進化をめざしています。

また保存会では、一般の方や子どもたちが踊りや楽器を体験できる「デカンショ楽習」を行い、楽しみや親しみを持ってもらうことで、次世代へつないでいく後継者育成にも力を入れています。



デカンショ楽習で和楽器体験